

マイセルフ

自分らしく

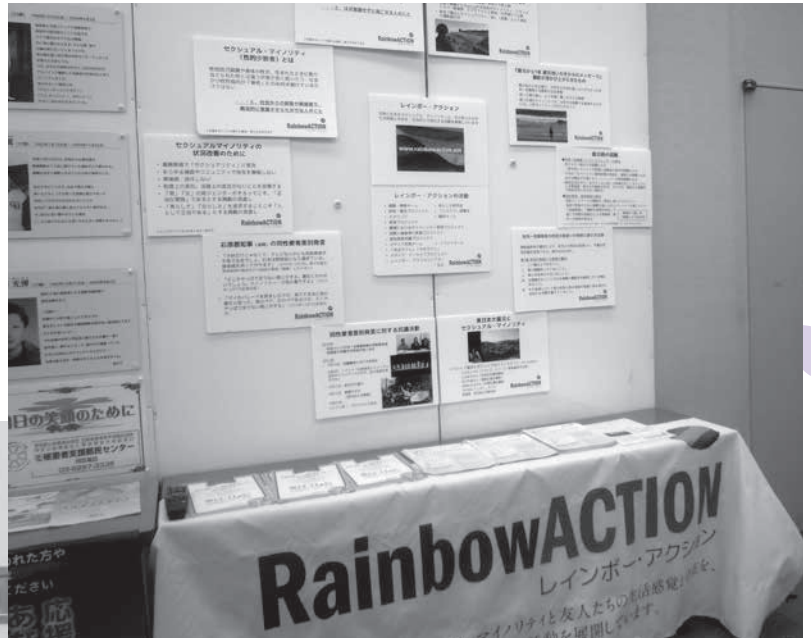
特集

十人十色

多様なあり方が大切にされる社会を

～セクシュアル・マイノリティの視点から考える～

H25.12.8
人権のつとめ
展示会場にて



私たちが品川区の

Vol. 2 しながわ区民公園



大きな広場に、運動施設・デイキャンプ場や遊具もあり友達や家族で楽しめますししながわ水族館もあり一日楽しめます。

※詳細は品川区HPをご覧ください

ちよつといい所
素敵なおとこころ♪

2014Apl.

- 十人十色 多様なあり方が大切にされる社会を 2 ~ 5 P
- 男女共同参画センターからのお知らせ 6 ~ 8 P

十人十色

多様なあり方が大切にされる社会を

～セクシュアル・マイノリティの視点から考える～

セクシュアル・マイノリティに関わる様々な活動に取り組んでいるレインボー・アクション代表の島田さん、事務局長の藤田さんに、お話を伺いました。

はじめに、レインボー・アクションの設立のきっかけは何ですか？

島田さん 発足の経緯は、2010年12月3日、当時の都知事が同性愛者に関する差別発言をしたことです。翌日にそれが新聞で報じられて、その発言の真意を問いただされたときに、2回目の差別発言がありました。それにも関わらず、当時インターネット上で情報交流していたセクシュアル・マイノリティの人たちの中で、それに関する目立った抗議活動が起らなかったのです。そのことがちょっと不思議で。当時僕はブログとツイッターをやっています、レスビアンの友達とツイッター上で呼びかけて、「都知事の差別発言に抗議する有志の会」を立ち上げるきっかけになる集会をしたのが始まりです。

主な活動内容を教えてください

藤田さん レインボー・アクションとして発足してから、集まった個人がやりたいこと、関心のあることを中心に取り組んでいます。約20分野の活動があります。ぼく自

セクシュアル・マイノリティとは

「性別の自己認識と身体の性が、生まれたときに割り当てられた性と異なっていない状態が長く続き、なおかつ性的指向が「異性」にのみ向き続けている」と、ほぼ意識せずに生きられる人のことを「セクシュアル・マジョリティ」と呼ぶとすると、「性別の自己認識や身体の性が、生まれたときに割り当てられた性とは異なる状態が長く続いたり、なおかつ性的指向が「異性」にのみ向き続けているわけではない」と、社会から排除されたり異端視されたりすることで、構造的に意識させられがちな人のことを「セクシュアル・マイノリティ」と呼ぶことができる

(定義をめくっては様々な意見・考え方があります)



身はその中でも、政治や行政に対する働きかけを担う請願・陳情チーム、国際人権基準の実現を目指すプロジェクトを主に担当しています。

主な活動を紹介すると、メディアにおける差別的な表現や発言、報道に対して抗議をする活動があります。

また、セクシュアル・マイノリティをキーワードにゆるく集まってゆるく語り合う「ゆるカフェ」、セクシュアル・マイノリティかも知れない人、かも知れない友人を持つ人が集まる「かもカフェ」。これらのカフェプロジェクトは交互に月一回開催しています。それから人の性別は「男性」「女性」しか存在しないという考え方を性別二元論と言いますが、このことに違和感がある人や疑問がある人、自分は「男性」でも「女性」でもないと思っている人、「男性」と「女性」の両方だと感じている人などが集まる「Xラウンジ」という活動もあります。

島田さんご自身について伺います。いわゆる社会のあたり前と自分が違うんじゃないか、セクシュアル・マイノリティなのではないかと気付いたきっかけを教えてください

他にも、「移民・難民プロジェクト」というのがあります。様々な理由で海外から日本にやってきて、日本で生活している中で、入国管理法違反となった人が一時的に収容される、東日本入国管理センターというところがあります。生まれたときに社会的には「男性」として割り当てられたけれども、本人としては「女性」に近い、いわゆるトランスジェンダーといわれる人たちが、ニューハーフと言うことも多いのですが、そうした方たちが収容されているという話を聞き、支援活動を展開しています。

島田さん 僕は20代の後半に自分は男性し

か好きにならないという自分を受け入れ
ましたが、それより前の思春期、周りが誰を
好きだのなんだのと言っている頃から、女
の子を好きという話に全然乗れないし、付
き合ってみたりしたこともあるのですが、
全然面白くないし、何がわくわくするかわ
からないと思っていました。そんな自分は
人を好きにならないのだろうなと解釈して、
別のことをすることで逃げていました。で
も、人と人が深く色んなことを話してい
くと、やはり恋愛に関する話が出てきます。
それが苦手なので、人付き合いに制限をす
るといふか、距離をおくようにしたのです
そうすると、自動的に変わり者と思われる
ようになり、また自分もそのキャラクター
をわざと作ることで、人と距離をつくるよ
うになってしまいました。

だけど、自分がゲイだつてことを受け入
れてみよう、そのことを言える人たちと繋
がってみようと思ひ、インターネット上で
ブログを書いたり、レスピアンであるとカ
ミングアウトしている議員さんと知り合っ
たりしてコミュニティーの存在を意識した
りしたのが始まりです。



日常生活で、不自由だと思われるこ
とを教えてください

島田さん 周りを見てみると、インター
ネット上ではゲイとかレスピアンとかバイ
セクシユアルとかトランスジェンダーとか、
本音を色々書いているセクシユアル・マイ
ノリティの人は、いっぱいいます。けれど、
日常生活ではそれを言っていないのだからな
という人がたくさんいて、その二重生活を
強いられてしまっているのです。さっき
言ったのと同じように、それを言えない人
たちのところではすごく壁を作ったり、あ
ること以上のことは言わないようにしよう、
言つと自分の生活に不利益が生じるという
恐れをずっと抱かされていたり、そういう
使い分けを日常的にずっとやっていると疲
れます。

また、トランスジェンダーの人で、例え
ば社会が自分を「男性」だと扱つことに違
和感があるとしたら、自分は違う性別だと
思っているのに社会が受け入れてくれない、
自分は女性だと思っているのに不本意にも
「男性」だと扱われて働いている。そうだ
としたらすごく苦痛だと思つたのです。各々
タイプによって社会から受ける視線や圧迫、
抑圧は種類が違います。僕は同性愛者なの
で、そうした人たちの本当の意味でのつら
さなどはわからなくて、想像力を持つしか

ないのですが、まだまだ自分が知らないよ
うな個別な事情がたくさんあるのだからな
と思います。

藤田さん 僕はいわゆるセクシユアル・マ
イノリティという立場ではないのですが、
小さい頃から泣き虫で、よくいじめられ
ていました。特に幼稚園のときに「男だつ
たら泣くな」「泣くのは男らしくない」など
と言われ、その頃から「自分は男らしくし
なければならぬ」という考え方が強く刷
り込まれていたように感じています。10代
のころは武道やスイミングなどで、身体面
から「男らしく」なろうと努力していました。
しかし大学でジェンダー学という学問に出
会つて、初めて「男らしく」とか「女らしく」



取材風景

という概念が作られたものであることを知
りました。また、「男らしく」ではなくて「自
分らしく」を大事にして生きていくことが
重要なんだということに気付きました。

島田さん 藤田さんのようにセクシユアル・
マイノリティではないけれど、世の中
の男らしく女らしくに自分を合わせられな
い人のしんどさは、とんでもないのではな
いか、その人たちはどうやって救われれば
いいのだろうかと思つています。

今、芸能界ではオネエタレントと呼
ばれる方が活躍していますが、そ
れについてどう思いますか？

島田さん テレビの中で売れるために、い
わゆるオネエタレントという呼称を引き受
けて、オネエ言葉を使い、周りからちよつ
と変わった存在であると思われるところから
言えること、毒舌が許されているところが
ありますよね。何故許されるかというこ
いわれる「正論」とされる立場の人がそれを
言つたら角が立つけど、ちよつと違う枠に
いるからこそ許されるというところがあり、
本人たちもそれがわかっていて、それを利
用して売れているところがある。そういう
意味では複雑だと思つて見えています。

また、オネエタレントとして今知られて
いるのは男性が好きと言っている人ばかり
で、かといってゲイという枠で認知されて



取材風景 左:藤田さん 右:島田さん

いるかと言ったらすごく微妙で、多分女装しているから女性で、女性として男性が好きなのだろうかみたい在接受入れられている節もあるので、異性愛規範をそれほど崩せていないのではないかと思います。オネエタレントとしての枠組みではなかったり、女装しなかったり、あるいはオネエ言葉を使わないで、男性の同性愛が存在できるかという存在できていなくて、ダメとされる現状が色濃くあり続けています。異性愛規範を強化してきているのです。

また、テレビの中でオネエタレントは笑いをとれているからいいけど、テレビの外でいい意味の笑いをしてくれるかといった、あざけりの対象にされたり、あるいは

男性なのに男らしくないのはおかしいというところでのいじめの対象になったり、性的嫌がらせの被害にあつたり、そうじゃない笑いの対象にされたりすることが結構あるのです。言われても傷つきませんとテレビの中でオネエタレントがふるまっているから、こいつも大丈夫だろうと思われる面も相当あるのではないかと思います。良い面と悪い面、両方あると思います。

また、オネエタレントがファッションチェックや人生相談をするときに、「女性としてそのファッションはどうなの?」「もっともてる良い女性になるためにはこうなのよ」と言いますよね。男女二元論に苦しめられて幼少期いじめられたはずの人たちが、売れるための方策として、ジェンダー規範を今度は強化する側に戦略的に入ることでしか売れないという状況はあると思います。いい加減、そういうのではなくても売れる人が出てきて欲しいという思いがありますね。

セクシュアル・マイノリティを理解
してもらうために、どのような意識
改革が必要だと思えますか?

島田さん 社会的に、ジェンダー規範と男女二元論に基づいた、これこそ男性としての正當な生き方だ、その対比としての女性としての正しい生き方だ、というような

ジェンダーロールみたいなものが築かれていると思うのです。国としてもその方が良くて、ほっておいたらそういう方向に行ってしまうのを、それ以外にもっと色いろなタイプがあつていいんだよ、もっと楽になるうよと崩していくことは、ずっと続けていかなければならないのだろうと思つています。それはセクシュアル・マイノリティだけではなくて、セクシュアル・マイノリティの自認はなくても男らしさ女らしさに自分を合わせなければと、そこにロールモデルがあると思わされている人たちにとつても必要です。実は、陥落の恐怖が常にあるわけで、そこからほれ落ちてしまったら、私はどうしていいのかわからないということになつてしまふ。だからそのジェンダーロールにすぎることになつていると思うのです。

レインボー・アクションを始めて、自分が発見したのはそこですよね。セクシュアル・マイノリティ自認を持つほどではないけど、明らかに何で自分が苦しめられているのか気付いていない。でも、知た者が引いた目で見てみると、ジェンダーのイメージやジェンダーロールに自分とはまらないことで苦しんでいることに気付いていない人が相当いっぱいいるということ

※ジェンダーロールとは、性別によって社会から期待されたり、自ら表現する役割や行動様式、性別役割。

に、もっと気付いていかないといけないのではないかと思います。

昔と今を比較して、セクシュアル・マイノリティの方々の中で変わったと思うこと、今後変わるのではないかとと思うことを教えてください

島田さん 日本の場合、表立って活動が活発になったのが90年代以降で、つい最近なのです。セクシュアル・マイノリティの人たちがカミングアウトを始め、実名で私はこういうものですと言つて本を出したりテレビに出たり、パレードや映画祭をやったり、その視点で語つていいんだということを取り拓いてきてくれました。

最近それがすごく活発になつてきています。特にツイッターの存在が大きいと思うのですが、色々な人たちが各地でやっていることがツイッターで本名ではなくても書きこめて、呼び掛けたら数名の人が来てそこからネットワークができて、なんてことが始まっているのです。それまで現実では出会うことができなくて、家族にも言えなくて、学校でも言えなくて、一人悶々と抱えていて、インターネットを覗くことだけが自分の本当のアイデンティティや本音を吐き出せる場所でした。それが現実の人に人と出会う、じゃあ何かできるかもしれないと、じわじわ広がることがあちこち

で起こり始めています。それがどんどん見える形で拡散されていって情報共有ができるようになったので、そういう意味ではツイッターの存在はもの凄く大きかったのではないかと思います。

今はインターネットが流行っていて、インターネット上の人間関係は希薄で、よくないのではないかと言われることもあると思うのですが、逆にその不透明さというかなんでも言える場が全員に共有されるという点は、セクシユアル・マイノリティの視点で見ると良いこともあります。特に、色々なSNS（※）が盛んで、自分の名前を使い分けることもできますしね。僕はSNSで本当の自分をさらけ出すことで楽になりました。そこで自分を受け入れてもらえたいと思えるようになり、実生活の方にも本当の自分をだせるようになってきている感じがします。

また、以前まではバッシングの中、活動をするという雰囲気だったのですが、今では活動をしていることをプラスにアピールする人たちがどんどん出てきているので、すごく大きく変わったなと思います。

最後に、読者のみなさまに人にメッセージをお願いします。

島田さん 自分の価値観とか視点だけが絶対じゃないということですね。誰もがそ

う人かも知れないなという想定をしたり、そういうとこに敏感になったり色々なアンテナを張り巡らせていただきたいです。

藤田さん 同じように悩んでいる人が他にもいるんだよということですね。今まだ出会えてないかも知れませんが。その出会いによって自分が救われたり、楽に生きられるようになったり、なにか自分の生きる道を見つけてきつかけになったりするので、可能なら、一人で悩まずに、信頼できる人や窓口に相談をしてみてもいいと思います。



取材後、編集委員と

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）とは、インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと。例としてフェイスブックやツイッターなどがある。

編集後記

島田さん藤田さんとお話をさせていただいて、男女という枠組みから外れたことで不由を強いられてしまう人がいる現実を聞き、今までの自分の視野の狭さを感じました。テレビの中ではなかった世界が、自分の身近なものになったような貴重な体験でした。

（椎名悠）

今まで自分は愛は愛であつてたれを愛しても構わないと、なんとなくでしか考えたことがなかったですが、もつと真剣に物事を考えようという気持ちになりました。当たり前にとられず、自分に何か一本筋の通つたものを見つけたことが大切なのではないかと考えさせられました。

（八田麻莉那）

今回の取材で様々な活動内容やセクシユアル・マイノリティに対する現状、意見を聞き、人の人格の多様性を実感しました。またインターネットの普及は単に情報を得るだけでなく自分と同じ考えや感情を共有し、発信できる場ということを知りました。ぜひまたお話を聞きたいです。

（尾島環）

今回マイセルフの編集に携わり、貴重なお話を聞くことが出来ました。何かと批判されやすいネット社会が、実は人と人とを繋ぐ役割を果たしていたということがとても印象に残っています。今号を手を取ってくださ

方に何か感じてもらえると嬉しいです。

（川畑茉梨）

今回で二回目の取材でしたが、前回同様とても緊張してしまいました。セクシユアル・マイノリティに対する社会の厳しさを知る一方で、自分自身が無意識のうちにセクシユアル・マイノリティの方々に対して無神経であった部分などを自覚することができ、問題の深さを痛感しました。セクシユアル・マイノリティという、当事者の方でないとなかなか理解し辛いことのお話を直接聞くことができ、とてもよい勉強になりました。

（石井佐帆）



自分らしい生き方してますか

～しなやかに生き抜く 人間力 仕事力 とは?～

開催日 平成25年11月16日(土)

場所 品川区立総合区民会館きゅりあん小ホール

参加者 300名

講演講師 佐々木 常夫氏(東レ経営研究所 特別顧問)

平成25年4月から「自分らしい生き方」をテーマに男女共同参画推進フォーラム2013の企画運営委員会を積み重ね佐々木氏を講師にお招きし開催しました。

佐々木さんは、自閉症の長男とうつ病の妻がおり、肝臓病をも患う妻は20年の間に43回もの入院、3回の自殺未遂を起こしました。佐々木さんは、このような、育児 家事 介護に追いかける中、破綻会社の再建などに取り組み、同期のトップで取締役就任されました。時間におられる生活の中、自分らしい生き方とは?大変な時の乗り越え方など、乗り越えられたからこそその知識や知恵、教訓などを伺い、自分らしくしなやかに生き抜く為のポイントを教えていただきました。最後は質疑応答が積極的に行われるなど、充実した講演会となりました。また、ホールのホワイエでは、委員による時短グッズなどの展示もあり入場された方たちに大好評でした。



参加者の感想

- 大変な状況の中、仕事と家庭を両立した佐々木氏に感動した。(30歳代・女性)
- 息子にもぜひ聞かせたかった(70歳代・女性)
- 話が面白すぎました。こんな人が世の中にいるとは思っていませんでした。一生懸命生きていれば、周りの人が助けてくれるの言葉が印象に残ってます。(30歳代・男性)
- 人それぞれの運命を引き受けようの言葉(70歳代・男性)
- 自分を大切にすること、人を大切にすること。全ての話に通じているように思いました。(40歳代・女性)
- 志があればいつからでものびることができる(40歳代・男性)
- 笑わせていただいたり、泣いたり…。ありがとうございました(50歳代・女性)
- 展示されている時短グッズについて、単なるアイデア商品のように見えていましたが、「効率よくするための物」という説明を読んで、そうかと気づきました。(40歳代・女性)



夫など、パートナーからの暴力に悩んでいませんか?

暴力は犯罪です。ひとりで悩まず、ご相談ください。

東京都の配偶者暴力支援センターなどをご紹介いたします。詳しいことは品川区男女共同参画センターへ Tel. 5479-4104

★男女共同参画センターDV専門相談 ……毎月第1・3・4・5日 午後1時～4時
 ……毎月第2日 午後5時30分～8時30分

※事前予約による面接または電話相談

★しながわ見守りホットライン(児童虐待・DV) ……Tel. 3772-6622 24時間つながります。

★国(内閣府男女共同参画局)の相談窓口「DV相談ナビ」 ……Tel. 0570-0-55210 (お近くの相談窓口を自動音声によりご案内)

① 緊急のときは(身の危険を感じたら) ……警察 110番(事件発生時)

■ 『ライフ&マネープラン講座』 (12月5日・12日 参加者28名(延べ人数))

講師 飯村 久美氏 (ファイナンシャルプランナー)

幸せな人生とはなにか。心と、お金と、健康とが同じ大きさでオリンピックの輪のような3重に重なりあった図が示されます。不安をなくすために、まず我が家の家計を「見える化」すること、週に1回は家計簿もしくはレシートを見て使い道を振り返ることが大事ですと話されました。途中、グループに分かれて人生ゲームも行いました。入ったお金、出ていったお金、出ていったお金を見直して見ること、節約するだけでなく良い買い物をして満足度が高いこともモチベーションが上がるので価値があります、とのアドバイスもありました。最後に、お小遣いばかり減らしてはいけない、それぞれが自分で自由に使えるお金も必要ですよ、と結ばれ終了しました。



■ ワークライフバランス講座① (1月25日 参加者6組 大人8名 子ども9名)

『親子でわくわく顔体操』

講師 岡本るみ子氏 (NPO法人国際ホリスティックフェイス協会理事長)

「親子でフェイスエクササイズを楽しみながら、笑顔の家族の関係を手に入れる。」ことを目的とした講座でした。

冒頭、人体の免疫バランスのお話で、免疫機能を高めるために良質な睡眠や食事などとともに「笑う」ということの大切さが強調されました。

「顔」は自分の力で変えることができない。しかし、「表情」は自分の力でイメージする表情に変えることができる。そのために、表情筋を鍛え、しなやかに動かす表情筋を手に入れましょうと呼びかけられ、後半には親子でフェイスエクササイズを実践しました。

受講された方からは、「顔の血行がよくなり気持ちよかったです。楽しみながら家で取り入れていこうと思います。」との感想をいただきました。



■ ワークライフバランス講座② (1月29日 参加者14名)

『働く女性のための早起き整理術』

講師 池田千恵氏 (図解化コンサルティングCONNECTA代表)

働く女性は、人生の選択肢が多い分悩みが多いもの。ビジネスマンの顔をメインに、働きウーマンとして主婦、母親など様々な顔を持ちます。共通の悩みは「もっと時間があれば！」。

そこで、早起きで人生が変わった講師ご自身の体験をもとに、大事な時間を確保するための時間の作り方、使い方を学びました。

「早起きのコツ」「ガンバルだけでは続かない、4つの仕組み化で朝を制す」などのお話の後、「ひとり時間捻出」のためのマッピングワークショップを行いました。

「頭を整理し、心が変われば、未来は動く」講師のしめの言葉でした。



- 会場** 品川区立総合区民会館きゅりあん (品川区東大井5-18-1)
問合せ先 男女共同参画センター 電話5479-4104 FAX 5479-4111
定員 30名 託児あり (定員に達している場合もありますのでご了承ください。)

*以下の内容は原稿作成時のものです。最新の情報は広報しながわおよび品川区HPでご確認ください。

開催日	内容	講師	募集掲載予定 広報しながわ
6月4・11日 ☼ 17・24 ☼ 午前10時~12時	ママカフェ (全4回)	別府 明子氏	5月1日号
6月7日 ☼ 午前10時~12時	絵本講座	児玉ひろ美氏	5月1日号

男女共同参画推進登録団体紹介12「TSPさつき会」代表 服部 美代子

TSPさつき会は平成21年11月に結成したばかりのグループです。メンバーも11名と少人数での活動です。当初は東京大学市民後見人養成講座で勉強をしていたメンバーでスタートしました。会の名前の由来もT（東京大学）S（市民後見人）P（プロジェクト）さつき（品川区の木なので品川区在住在勤のメンバーを中心に品川区内に活動拠点を置いて活動していこうという思いを込めて）会としました。

私たちが市民後見人という立場、後見人制度等を勉強し始めた数年前は、後見制度そのものもまだまだ周知されていませんでしたし、市民後見人という言葉も知らない方が多かったように思います。しかし最近では後見人制度という言葉も、後見人・市民後見人と言う言葉も大分市民権を得てきたように思われます。特に昨年10月から品川区主催の市民後見人養成講座が開講されたこともあって、高齢者の方のみならず広く区民の方々の関心が高まってきたのかもしれない。

ただ、関心が高まったことと、制度そのものを正しく理解認識していることは必ずしもイコールではないように感じられます。同様のことが、年々被害額が多額になり、被害件数も増加してきているといわれる消費者被害や振り込み詐欺などにも言えるのではないのでしょうか。高齢者、特に高齢女性がターゲットにされやすいという現実も残念ながらあるようです。超高齢化が目の前に迫りつつある今、高齢者の抱えている種々の問題に、様々な資源を活用し、常に正確な情報、新しい情報を分かりやすく提供していくこと、そしてなによりも孤独感・孤立感を感じる事が少なくなるような身近な地域での見守り支援活動の輪を広げていきたいと思っています。

とはいえ、構成メンバーの年齢性別職業経歴も要件はなにもないグループですし、発足して間もないヨチヨチ歩きのグループです。これから徐々にメンバーも増やし経験も積んでしっかりとしたグループに成長して行きたいと願っています。



男女共同参画センターからのお知らせ

女性相談員による相談室

心や生き方の悩み、
家庭のことで困っていること、
また、法律に関することや離婚、金銭トラブルなど、
お気軽にご相談ください。
(男性もご利用ください)

電話相談

カウンセラーによる電話相談

毎月第1・2・3木曜日 午前10時～午後4時

(ただし、木曜日が祝日の場合はお休みとなります)

正午～午後1時前後は休憩時間のため、対応できないことがあります。

終了時間が午後4時ですので、お電話は午後3時30分ごろまでお願いいたします。

専用電話 5479-4105

面接相談

無料。事前予約が必要です。

予約電話 5479-4104

	相談時間	4月	5月	6月	7月
弁護士	午後1時～3時30分	2日 (水)	7日 (水)	4日 (水)	2日 (水)
	午後1時～3時30分	8日 (火)	13日 (火)	10日 (火)	8日 (火)
	午後5時30分～8時	14日 (月)	26日 (月)	16日 (月)	14日 (月)
カウンセラー	午後1時～4時	24日 (木)	22日 (木)	26日 (木)	24日 (木)
DV相談	午後1時～4時	4・18・25日 (金)	2・16・23・30日 (金)	6・20・27日 (金)	4・18・25日 (金)
	午後5時30分～8時30分	11日 (金)	9日 (金)	13日 (金)	11日 (金)

※法律に関することは法律相談（弁護士）を、
こころや生き方の悩みごとはカウンセリング相談（カウンセラー）を、
DVに関することはDV相談（専門相談員）をご利用ください。

☆交流室や会議室を、男女共同参画の推進を目的とする活動や学習のために、ご利用ください。交流室には資料コーナーが併設されています。

◇交流室 18席（最大）：個人やグループの活動の場としてご利用ください。

◇会議室 36席（最大）：利用する場合は、あらかじめ団体登録が必要です。詳しくは男女共同参画センターにお問い合わせください。

特集記事にご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

○次号「マイセルフ 自分らしく」46号は平成26年8月発行予定です

マイセルフ・自分らしく-VOL.45（しながわの女性から通算すると75号） 2014年4月発行（年3回発行）品川区総務部人権啓発課男女共同参画担当
〒140-0011 品川区東大井5-18-1 品川区男女共同参画センター TEL.5479-4104 FAX.5479-4111 Eメール：danjo@city.shinagawa.tokyo.jp

●区内の各図書館、地域センター、文化センターなどで配布しています。古紙を配合した紙を使用しています